

# フォルクスワーゲン1500A



株式会社 梁 瀬 自動車事業部

東京都港区芝浦一丁目6-38 TEL:(452)4311(大代)

# 技術諸仕様

## VW1500 A セダン

- **エンジン**：水平対向4気筒・4行程・後部搭載，内径×行程83×69mm，容積1493cc，圧縮比 7.5 : 1，最高出力54馬力(SAE)/4200rpm，最大トルク11.5kgm/2800rpm(SAE)，平均ピストンスピード 8.7msec/3800rpm，オイルクーラー付き圧送潤滑，ファンによる強制空冷(サーモスタット付き)。サイドドラフトキャブレター，自動チョーク，加速ポンプ及びオイルバス式エアクリーナー付き，吸気及び混合気自動予熱装置
- **電気系統**：6ボルト・88アンペア・バッテリー，200ワットダイナモ，デイマースイッチ付きヘッドライト，自動復元式方向指示フラッシャー，二重始動防止装置付きイグニッション・スタータースイッチ，自動定位置停止式ウインドウワイパー(スピード調整可能)，圧搾空気式ウインドウウォッシャー，ドア運動室内灯
- **トランスミッション**：乾式単板クラッチ・フルシンクロ4速ギヤボックス・デフアレンシャル・スイング ハーフシャフトによる動力伝達後輪駆動，ギヤ比第1速～第4速3.80 : 1・2.06 : 1・1.32 : 1・0.89 : 1，後退3.88 : 1，ファイナル ドライブ比 4.125 : 1
- **シャシー**：中央トンネル式フレーム，プラットフォームに溶接，エンジン及びトランスミッションには緩衝ゴム付きのサブフレーム，全輪独立懸架装置，トーションバースプリング，テレスコープ型ショック アブソーバー，フロントアクスルに緩衝ゴム付スタビライザー，油圧ステアリングダンパー付きロールタイプステアリング，ステアリングコラム上のイグニッション ロックによりステアリングはロック可能，回転直径約11m，ハンドルはロックからロック迄 2.8回転，油圧ブレーキ，前輪はディスク・後輪はドラム，チューブレス・ローセクション タイヤ・6.00-15L，燃料タンク(ボンネット下)容量約40リッター，燃料残量は燃料計に表示。
- **ボデー**：2ドア5人乗りセダン，トランクルーム前後に2ヶ所，フロント0.18m<sup>3</sup>，リヤ0.2m<sup>3</sup>，ボンネットはセルフ サポート式，フレッシュエアヒーティングシステム，放出ベントはウインドシールドに3ヶ所・前後の床面に各2個づつ(開閉自由)，ウインドシールドならびに室内用特殊換気装置，計器類：走行距離積算計付き速度計・燃料計・警告灯類(方向指示フラッシャー・ハイビーム，ダイナモチャージ・油圧)。各フロントシートのシートとバックレストは49位置に(運転中でも)調整可能，サンバイザー，同乗者用グリップハンドル，吊手2個，コート掛け2個，アームレスト2個，灰皿2個。安全ベルト用留金，別価格にてチスール製スライディングルーフの発注も出来ます。
- **寸法—重量—性能**：ホイールベース2400mm，トレッド前/後1311mm/1346mm，全長/全巾/全高4225mm/1605mm/1475mm，車輛重量/積載量 913kg/397kg＝総重量1310kg。最高巡高速度126km/h於3950rpm，登坂能力(乗員2名)第1速1 : 2.2，ドイツ規格による燃料消費量(※DIN70030) 11.9km/ℓ。燃料タンク満タン時で400～500km走行可能

※平坦路を半荷重で最高速度の¾の一定速度で走行した場合の燃費+10%

## ステーションカー 1500 もあります



豊富な装備は、フォルクスワーゲン1500Aにまさるとも劣りません。しかも車内はもっと広々としています。窓がサイドに2つ多くついている。後部にスプリング式リヤドア。リヤシートを折りたたむと、後部のトランクルームは1.2m<sup>3</sup>にも広がります。フロントボンネットの下に、もう1つトランクルームがある。これだけの要素を、1500Aにプラス。その広さ、快適さ、便利さ、有用さは比をみません。

## VWステーションカー1500

### VW1500セダンとの相違点

- **電気系統**：リヤドア上部に室内灯
- **ボデー**：5人乗り貨客兼用車，各側面にウインドウ付き，2ドア，上方ヒンジ留スプリングサポート式ドア，折畳み式リヤシート，トランクルーム，フロントはセダンと同じ・リヤは高さか天井迄一杯，総容積0.87m<sup>3</sup>，
- **寸法—重量—性能**：高さ1465mm，リヤドア：最大巾×高1058mm×645mm，荷物室の最大寸法：長×巾×高(リヤシートを倒した時) 1669mm×1219mm×810mm，容積 1.2m<sup>3</sup>，車体重量(運転者75kgを含む。)1017kg+積載量 372kg＝許容総重量1389kg，登坂能力(½荷重で第1速時) 1 : 2.5全荷重で1 : 3

## 経済的な54馬力空冷式エンジン

エンジンだけを見て、それで車を決める人はまずないでしょう。しかし、どんなエンジンがついているかで、のちのちの出費が決まるものです。たとえば、燃料費、オイル代、修理費など。

フォルクスワーゲン1500Aのエンジンは、時の試練に耐えぬいた、頑丈で、長持ちのするエンジンです。ガソリンやオイルの消費もわずか。手入れや修理も驚くほど少ない。その上フォルクスワーゲンは、北極も、熱帯もいといません。空冷式のおかげです。空気はどこにでもあるし、その上タダです。空冷式だから、もちろん水は一滴も不要。だから、ウォーターポンプも、ウォーターホースも、ラジエーターもありません。（もともとないのですから、故障したり錆びついたりしようがありません）不凍液もいりませんから、それだけご節約というものです。

それに、フォルクスワーゲンには、あの長くて重いプロペラ

シャフトもありません。エンジンが後にあり、駆動輪に直接動力を伝えているからです。トランスミッションも簡潔、出



力の無駄がないのです。

ショートストローク、低速回転エンジン——磨耗が少なく、驚くほど寿命が長いのが特長です。エンジン容積が大きく、54馬力を出しても余裕しゃくしゃく。強力で頼りになります。リヤエンジンで、重みが後車輪にかかっているのも、タイヤがしっかり路面に密着します。さらにエンジンも、とても平たく設計されているので、車の重心が低くなっています。フォルクスワーゲンの無類のロードホールディングが生まれる理由です。

エンジンだけで車を選ぶ人はないにしても、いったん車を買った以上は、エンジンが、車の走行性能を左右することがお判りいただけたでしょうか？

フォルクスワーゲン1500Aのエンジンは、経済的なリヤエンジン。休むことなく、いつまでも疾走に疾走をつづけます。

## 前輪にディスクブレーキを採用

速い車には、速く効くブレーキが必要。当然のことです。フォルクスワーゲン1500Aのすどい出足、敏感な加速は、強力な速効ブレーキによってしっかりと裏付けされています。



前輪にディスクブレーキ、後輪に大型ドラムブレーキを装備。どんな条件のもとでも制動距離が非常に短く、ドライバーひとりの場合でも、定員全部が乗っている時でも、

横すべりでハンドルをとられる不安がありません。

フェーディング現象も皆無。高速運転のとき、緊急のとき、ひんばんに使うとき——どんな時でも、このブレーキがあなたの信頼にこたえます。

## 快適な装備

フロントシートは、ゆったりした、調節自在のバケットシート。快適です。リヤシートは巾が1359ミリもあるベンチシートです。ともに、シートもバックレストも、その形や柔らかさに、人間工学の配慮がゆきとどいています。柔らかすぎず堅すぎず、しっかり支えながら、身動きが楽、疲れを知らません。

フロントシートは、バックレストの傾斜角度、シートの前後位置が、49通りにも変えることができます。走りながらでも、この調節ができますから、いつもいちばん楽な姿勢が選べます。リヤシートも、足もとがたっぷり。膝もつかえません。床からの高さが適切。奥ゆきも深い。バックレストもよくできているからです。



バックレストは、人間工学的に正しいばかりでなく、高さも充分あるので、長い旅行でも疲れることはありません。室内のサイドと天井はレザー張り、床にもゴムマットをしいていますから、水洗いは簡単です。

フロアギヤレバーはスポーツカーなみ。すぐ手もとにあって



チェンジがまったく楽です。ハンドブレーキの位置も適切そのもの。ステアリングホイールは、ツースポーク。握っただけで頼りになる感じです。

さて、装備はまだあります。特殊な換気装置。7ヶ所のベントのある、強力なフレッシュエアヒーティングシステム。使いやすい灰皿。柔らかい材質のコート掛けと吊手。同乗者

用のグリップハンドル。座席安全ベルト取り付け用留金。二重始動防止装置つきスターターイグニッションスイッチ。圧搾空気式ウインドワイパー。特大ダッシュボックス。安全な設計のバックミラー……どれをとってみても、たぐいまれな品質、最高の技術が生かされています。

## 2ヶ所の実用的なトランクルーム

トランクルームが2ヶ所もあるので、しごく便利。荷物を前部と後部にわけて入れられます。重量もうまく配分されるわけ。後部に荷物をつみすぎて、夜、ヘッドライトが上を向いてしまったりしません。

スーツケースを一杯につみかさねるのは、とかく不便なもの。欲しいと思ったものが、いちばん下にあたりして、うんざりさせられます。フォルクスワーゲンのように、前後2ヶ所にトランクルームがわかれているれば、そんな不便もありません。

バカンス用品と旅行用品、

自分のものとお客様のものという風に、区別することもできます。トランクルームは清潔でなめらか。フォルクスワーゲンの良心的な技術がここにも発揮されています。

スペアタイヤは、フロントボンネットの下に入れるようにな

っています。トランクルームとは全然別のところ。スペアタイヤと同じ場所に、ジャッキ、プラスチックブレーキオイル槽、ウインドウワッシャー液槽が入っています。燃料タンク注入口もここにありますが。



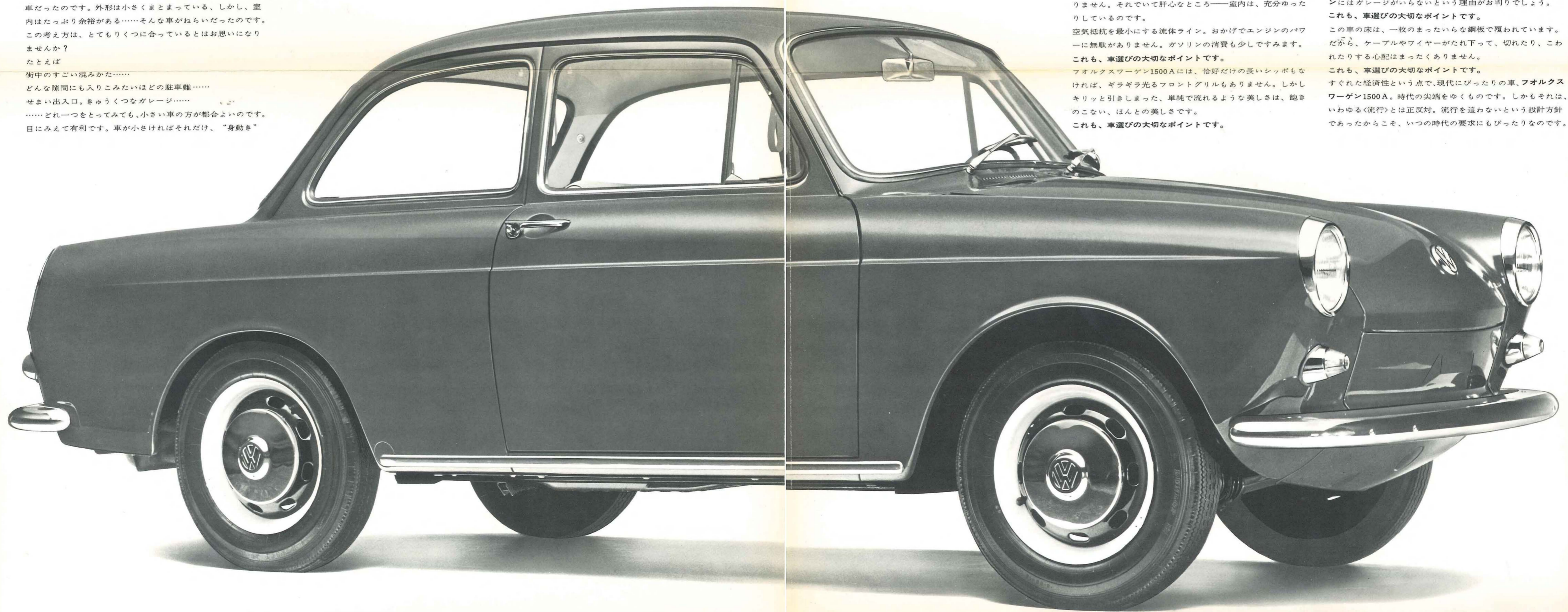
ぬかるみでタイヤを交換、泥んこのタイヤが荷物をよごす——そんな心配はありません。

前後のトランクルームとも自動ロック式。ロックは車内からはずします。両方とも、トランクルームのボンネットはスプリングで支えられていますから、開けるのは簡単でラクです。

# 美しくコンパクトなボデーライン

フォルクスワーゲン1500A……この車を設計する時、もっと長く、もっと広く作ろうと思えば、いともたやすいことでした。しかし、私たちが作りたかったのは、〈コンパクト〉な車だったのです。外形は小さくまとまっている、しかし、室内はたっぷり余裕がある……そんな車がねらっていたのです。この考え方は、とてもしっくり合っているとお思いになりませんか？

たとえば  
街中のすごい混みかた……  
どんな隙間にも入りこみたいほどの駐車難……  
せまい出入口。きゅうくつなガレージ……  
……どれ一つをとってみても、小さい車の方が都合よいのです。目にみえて有利です。車が小さければそれだけ、“身動き”



が楽になる道理です。それに、むやみに大きく重い車をかかえこんでみたところで、余分な出費が馬鹿になりません。フォルクスワーゲン1500Aは、不必要に大きくも、重くもありません。それでいて肝心なところ——室内は、充分ゆったりしているのです。

空気抵抗を最小にする流体ライン。おかげでエンジンのパワーに無駄がありません。ガソリンの消費も少しですみます。これも、車選びの大切なポイントです。

フォルクスワーゲン1500Aには、恰好だけの長いシッポもなければ、ギラギラ光るフロントグリルもありません。しかしキリッと引きしまった、単純で流れるような美しさは、飽きのこない、ほんとの美しさです。これも、車選びの大切なポイントです。

この車にも、フォルクスワーゲン独特の、エナメル樹脂ペイントの4重塗装がほどこされています。雨、風、雪、あられ……自然の猛威に長年でも耐えぬきます。フォルクスワーゲンにはガレージがいらぬという理由がお判りでしょう。これも、車選びの大切なポイントです。

この車の床は、一枚のまっぴらな鋼板で覆われています。だから、ケーブルやワイヤーがたれ下って、切れたり、こわれたりする心配はまったくありません。

これも、車選びの大切なポイントです。すぐれた経済性という点で、現代にびったりの車、フォルクスワーゲン1500A。時代の尖端をゆくものです。しかもそれは、いわゆる〈流行〉とは正反対。流行を追わないという設計方針であったからこそ、いつの時代の要求にもびったりののです。